

優秀賞

真剣に考えよう、福島のこと

桶川中学校二年 田中 柊成

「福島に異動が決まった。」

久しぶりに帰省した父が、母にそう伝えた。父の表情は、何か心配した様子だった。話を聞くと、復興に向けて自分も尽力したいが、震災を同じ立場で経験していないので、福島の方々の思いを理解し、それに応えられるよう仕事が出来るかどうか心配だ、ということだった。そんな父に母がこう言った。

「転勤するまでまだ時間はある。震災について、復興について、福島のことを沢山調べて知ることを、まずは大事なことだと思う。」

僕もそれを聞いていて、震災のことも復興のことも、僕自身テレビで見えて知ること以外、何も分かっていないことに気づいた。今年は震災から十年が経ち、復興五輪とした東京オ

リンピックも開催された。それもあって、震災のことや復興のことを耳にする機会が多かった。でも今までそのことを真剣に考えたり、知ろうとしたりしなかった。辛い気持ちになつたり、心が沈んだりする話題を避けていたところがあつた。

僕は震災当時のことはほとんど覚えていない。千葉に住んでいたのも、その時住んでいたマンションの一部が壊れてしまい、知り合いの家に避難したそうだ。埼玉への引っ越しが三月末に決まっていたので、母は片付けをしながら、引っ越しの準備もしなくてはいけなかった。大好きな場所を離れ、新しい所に行く不安もある中で、精神的にとっても辛かつたと、母は話していた。だから、毎年三月になると思いだして苦しくなると言うので、僕の中でも避けてしまおうと場所があつた。

オリンピックのソフトボールと野球の試合が福島で行われることもあって、僕は気にしてニュースを見るようになった。そこで参加国のチームの中で、日本の食材や、ブーケに使われている花に不安を感じているというニ

ユースを聞いた。僕はこのオリンピックが、復興五輪として行われていることを理解し参加してもらっていると思つたので、悲しくなり、日本人として胸が苦しくなつた。でも福島の方々には、僕が感じている以上に、もつと辛くて悲しい思いをしたと思う。

父の異動の話と復興五輪をきっかけに、実は何も福島のことを知らない自分が、とても恥ずかしくなつた。母が父に言つていたことを思い出し、僕も福島のことを調べようと思ひ、復興庁のホームページを見てみた。そこに載つていた言葉が、

「福島のことを知っていますか。知るといふ復興支援があります。風評の払拭に向けて、知つてください。福島のこと。」
だつた。

僕はこれを見て、心臓がどきつとした。海外の人のことを言える立場ではないと反省した。僕自身が福島のことを知ろうともせず、さらには、福島のことを見ようとしないで過ごしてしまつたからだ。勝手に避けて、どこかで自分には関係ないかなと思つてしまつてい

た。

「知るといふ復興支援があります。」
今からでも僕が出来ることは、これだと思つた。少し調べただけでも、福島の方々の取り組みは、本当に素晴らしいと感じた。みんなが知つて正しい情報が伝われば、風評被害は無くなる。僕たち日本人が、福島のことを、復興のことを、真剣に考えて知るべきだと思ふ。大切に思つて、身近に感じていきたい。